

# 船釣りの作法

【連載】※月1連載

釣技  
技食



西日本では生きエビ（サルエビ）にこだわる船が多い



## 其の十 北九州門司大里港出船

### 響灘・一つテンヤで ディープゾーンの大ダイを狙う

北九州、関門海峡の北側に広がる響灘は大ダイが釣れる海として全国の一つテンヤ、タイラバファンより注目されている。

盛期は5月以降。その絶好期を前に当地を訪れた折本隆由さんは、まだ見えぬヒットパターンを探るべく釣りを組み立てていた。

この日の釣り場は響灘の東側、角島沖の水深90メートル前後。船はパラシユートアンカーを入れて流していく。探見丸には海底付近に魚群反応。四季丸・岩本博行船長は海底から5〜10メートル上にマダイが浮いていることを伝える。

折本さんが最初に選んだタックルはスピニングのエンゲツXR230H。テナヤはタンクステン13号で、まずはボトム〓海底を確認する。

深場でも正確にボトムを把握し、テナヤのフケ上がりを抑えコントロールしやすいよう道糸はPE0.6号。潮切れのよいラインは真つすぐに立ち、すぐに魚信を伝え、大きなレンコダイ（キダイ）が掛かる。

底でレンコダイならばと、着底したらずぐに離して5〜10メートルと上げていくもレンコダイ。どうやら海底で見つかると、追われてしまうようだ。

ここで折本さんは海面からタナを取る。つまり、1投目で水深90メートルで着底したのなら、次投は85メートル

○折本隆由 バスプロとしてのキャリアを持ち、ロックフィッシュを中心にソルトウォーターゲームに深く精通するマルチアングラー。一つテンヤへの造詣も深く、バイトタックルを用いた一つテンヤのバイオニアの1人。

